

用水不足に対応した技術対策

令和4年4月15日
農業振興課

今冬は、期間を通じて雨や雪が少なく、現時点で農業用水の不足が懸念される地域もあり、今後の用水確保が難しくなる恐れがありますので、事前対策の準備をお願いします。

【水稻】

I 本田における対策

1 用水の計画的利用と有効利用

- (1) 水利組合と連携して、用水計画を見直すとともに適切な配水を徹底する。
- (2) ダムや溜池からの用水に加え、河川からの取水が可能な場合は利用を検討する。
- (3) 浅水代かきなど、用水の節約に努める。

2 漏水防止

畦畔、水路の点検を必ず行ない、漏水を防止する。

- ・畦畔の崩れやモグラ穴の補修
- ・暗渠の確実な閉鎖、ほ場排水口の修繕・漏水対策
- ・畔塗の実施 など

II 育苗における対策

1 播種及び管理

- (1) 育苗期間の延長の可能性があるため、厚播きを避け、適正な量での播種を徹底する。
- (2) 苗を徒長させないため、出芽時の鞘葉長は1 cm以下とし、緑化・硬化時に高温とにならないように注意し、灌水は控えめとする。

2 老化防止・育苗期間の延長

- (1) 苗が植付適期（葉齢2.5葉程度）となっても移植ができない場合は、1週間程度育苗期間を延長するため、第2葉葉身を1/2程度剪葉し、箱当たり窒素0.5g（硫酸50gを水10ℓに溶いて、箱あたり500cc灌水）を追肥する。
- (2) 第3葉展開期（葉齢2.8～3.1）になっても移植ができない場合は、さらに1週間程度育苗期間を延長するため、第3葉の1/2を剪葉し、第2葉剪葉と同様に窒素追肥を行う。

【果樹】

I 苗木の新植時における対策

定植後間もない幼木は乾燥に特に弱いため、株元周辺の土壌の乾燥具合を点検し、必要に応じて、重点的なかん水やマルチ等の乾燥防止対策を行う。

II 柑きつ類の対策

高糖系柑橘類の一部などでは、根が少ないまたは浅く、隔年結果性の強い品種がある。特に、せとみは根の量が少なく、春先の乾燥により養水分の吸収がさまたげられ、生理落果を助長し、着果量の減少や隔年結果を生じる場合がある。

このため、土壌の乾燥状況を把握し、必要に応じてかん水し、除草・敷草等の乾燥防止対策を行う。

【花き】

I リンドウ

1 新植時における対策

(1) 苗が到着しても、ほ場に定植ができない場合は、6月上旬まで定植を延長し、セルトレイのまま管理する。その際、セルトレイを直射日光が当たらない涼しい場所に置き、苗が痛まないようハス口などを用いてかん水する。1週間に1回程度、液肥（OKF-1 1000倍など）を施用する。

(2) 6月上旬になってもほ場に定植できない場合は、3寸ポリポットに苗を鉢上げし、定植まで育苗する。

2 定植2年目以降における対策

早期に遮光資材を設置し、蒸散量を抑え、株の負担軽減に努める。